

井上眼科病院 同門会だより 第5回

後藤眼科医院 後藤 克博 院長

私は今も井上眼科病院に勤務しているような気がしています。そのことを井上先生にお話した所「だいぶ前だよ」とお返事されてしまいました。早いもので国分寺で開業して7年になりますが、診療の内容も、患者さんへの対応も、もし井上眼科病院に勤務していなかったら、今の私はありません。

井上眼科病院在職中は、井上先生のご厚意により緑内障外来を担当させていただきました。緑内障という病気に対する認識がそれ以前と全く変わりました。今も緑内障の患者さんを中心に診療させていただいているのはこの経験があっ

のことで、井上先生には大変感謝しております。

また、井上眼科病院では診療前の早朝に医局で症例検討会を行っています(患者さんがご存知ない所でも努力を重ねているのが井上眼科病院のすごい所です)。今でもその症例のほとんどを覚えており、現在の診療に役立っています。

井上眼科病院にご恩返ししたくてもなかなかできないのですが、真摯に患者さんと向き合うことがそれと思い、国分寺での診療にあたっています。



後藤院長(右)と井上理事長



診察中の後藤院長

後藤眼科医院

〒185-0021  
東京都国分寺市南町2-16-20 2F  
TEL 042-324-5566

井上眼科病院 レーシック(近視矯正手術)説明会

オススメ!

レーシックに関心をお持ちの方、実際に検査・診察を受ける前に説明を聞いてみたいとお考えの方は、お気軽にご参加ください。担当医師との個別相談も可能です(希望者のみ、お一人5分程度)。

- 日時: 2013年7月17日(水)、8月21日(水)、9月18日(水) 午後6時30分より1時間程度
- 場所: 井上眼科病院1階 ■費用: 無料
- お電話での予約: **フリーダイヤル 0120-48-4930** (受付時間: 午前9時~午後5時 ※日曜・祝日を除く)
- ホームページから予約:

お悔やみ(中井義幸先生)

2004年1月から2009年3月まで井上眼科病院に勤務されていた中井義幸先生が5月29日、ご逝去されました(享年43歳)。ご生前のご功業に敬意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入局医師の紹介



あらかわ ひさや  
**荒川 久弥 医師**  
(2013年5月1日入局 井上眼科病院 常勤医)  
できる限り丁寧な診察を心掛けています。宜しく申し上げます。

西葛西・井上眼科病院 第9回 知っ得セミナー(無料)開催のご案内 ~毎月第2水曜日開催中~

日時: 2013年7月10日(水) 午後2時30分~午後3時00分 場所: 西葛西井上眼科子どもクリニック  
テーマ: 「眼科検査の基礎知識」 ~検査の方法、結果からわかること~ 講師: 豊岡真由美(西葛西・井上眼科病院 視能訓練士)  
視力検査、眼圧検査、視野検査、画像検査など当院で行っている検査について、その検査方法と結果からわかること、検査を受ける際のコツなどをお話しします。

お申し込みはお電話か当院職員まで **TEL.03-5605-2100** どうぞ、お気軽にご参加ください。  
第10回以降の予定は、決まり次第ホームページ (<http://www.inouye-eye.or.jp/nk-hospital/>) でお知らせいたします。

「井上眼科だより」に関するご意見・ご感想・取り上げて欲しいテーマ等ございましたら、広報課までご連絡ください。

主な内容

- 2面 お茶の水だより: 眼科専門研修医のご紹介 こどもの目の病気 携帯電話お呼び出しサービスについて
- 3面 西葛西だより: 網膜硝子体手術 「西葛西・井上眼科病院」新築計画(2015年春 竣工予定)
- 4面 同門会だより(後藤眼科医院 後藤克博 院長) 入局医師の紹介 レーシック説明会 知っ得セミナー(無料)開催



お久しぶりでございます。

月曜から水曜まで井上眼科病院(本院)で「神経眼科・心療眼科」の特別外来だけを行うようになった昨年から、ごく一部の患者さんにしかお目にかかる機会がありません。神経眼科、心療眼科の領域は、患者さん一人ひとり診療に時間がかかり、一日に診察できる患者数が限られるからです。

さて、学校崩壊、医療崩壊などと言われて久しいですね。学校は生徒が主人公、病院は患者が主人公。こんなご当たり前のことを、当たり前すぎてよくよく考えてみようと思わないのが我々の性癖。

大半の医師は昼食の時間さえ削って、毎日の外来や手術をこなすのに汲々としています。こんな非人間的な勤務であるのかと不満を抱えつつ。患者さんの中には、電車やバスを乗り継いでわざわざ「井上眼科病院」にやってきたのに、待ち時間は長く、医師たちの説明も不十分、などという経験をお持ちの方もおられるでしょう。

医師は段々元気をなくし、患者は「患者中心の医療」になっていないと不満をもちます。医師にせよ患者にせよ、自分本位に考えると、どうしてもこのような不満が募ります。

井上眼科病院 名誉院長 若倉雅登

たいていここで思考が止まってしまうので、両者の不満は一向に解消せずに打ちすぎてゆきます。学校にせよ病院にせよ、ルールの中で運用されなければうまくくわけはありません。そのルール自体が時代に少々そぐわなくなってきたことに思い至らないのです。

おそらく、これまでの習慣や思い込みがまかり通り、「患者本位」という言葉が医師にも患者にも曲解されて、ルールの不明確なところで医療が行われているからこんな不幸な不満が噴出してくるのでしょう。一度皆でよくよく考えてみたいものです。



## お茶の水だより

### 眼科専門研修医のご紹介

井上眼科病院は日本眼科学会研修施設の認定を受けており、専門医研修施設として2006年より、後期研修医を採用、教育しています。臨床面において幅広い症例を学ぶことはもとより、医の倫理、接遇、ロービジョンへの理解などにも力を入れたカリキュラムで、これまで8名が研修を修了し当院の常勤医師となっています。5月下旬からは、後期研修医の診察実地研修が始まりました。経験豊富な医師の指導のもと研修に励んでおりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### <4月1日に入局した後期研修1年目の医師より>



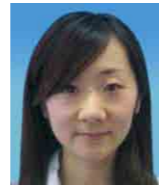
北畑 将平

出身は兵庫県です。今後の目標は手術の技量をしっかりと磨き、小児も含め幅広い方々へ貢献出来る眼科医になれればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



古池 紗緒里

高知県出身です。今年の4月から後期研修医として勤務しています。早く知識と技術を身に付けて患者さんに信頼される眼科医になれるよう努力したいと思います。



柏淵 恭子

眼科医として働き始め、まだ日は浅いのですが、日々眼科の奥深さを実感しています。早く一人前になれるよう日々努力していきたいと思っています。

#### <後期研修を経て 現在活躍中の常勤医師より>

**藤本隆志**：眼科医を目指すにあたり、他人に負けないだけの臨床能力をつけたいという希望から当院での後期研修を選択しました。研修中は上席医の指導のもとで、全国から来院する多種多様な疾患を診察し、臨床能力を高めることができたと感じています。後期研修を終えて4年目となり、現在は白内障を主体に年間200~300件の手術をしていますが、これだけの経験ができるのもまた、当院特有の環境にあると感じています。

### こどもの目の病気

「お茶の水・井上眼科クリニック 小児眼科外来」と「西葛西井上眼科子どもクリニック」では、近視や遠視から弱視や斜視、先天性まで様々な疾患を診断・治療しています。大切なのは早期発見・早期治療です。お子さまの目の健康状態はいかがですか？



お茶の水・井上眼科クリニック

小児眼科外来 **永野 雅子**

学校健診後に、眼科受診するお子さんが多い季節です。視力低下、結膜炎、逆さまつげが多く見受けられます。

**1. 視力低下**: 学校では、ABCDで判定されます。学校ではDでも病院で測るとAの事もあります。念のため、A判定のお子さんも、一度は眼科での視力測定をお勧めします。「眼鏡をかけると近視が進みますか?」とよく聞かれますが、

そんな事はありません。でも、眼鏡を作る時は眼科で測定し、正しい眼鏡をかけましょう。

**2. 結膜炎**: アレルギー性、細菌性、ウイルス性に分かれます。その中でもウイルス性は伝染力が強く、出席停止となります。もちろんプールにも入れません。点眼治療が必要ですから、目やにや充血がある時も眼科受診しましょう。

**3. 逆さまつげ**: 「手術が必要ですか?」と、心配して受診される方が多いです。でも、必ず手術になるのではなく自然に治る事もあります。



#### 待ち時間を有効にお過ごしいただくために— 携帯電話お呼び出しサービスをご存知ですか？

お茶の水・井上眼科クリニックでは、院外で検査・診察をお待ちになる方の携帯電話へ、順番が近づき次第お呼び出しをするサービスを行っています。ご利用を希望される方は、お近くのカウンターへお申し出ください。



## 西葛西だより

### 網膜硝子体手術



西葛西・井上眼科病院

副院長 **大島 佑介**

4月より西葛西・井上眼科病院の網膜硝子体チームの一員に加えさせて頂きました大島佑介です。それまで大阪大学の眼科学教室で教官スタッフとして約10年間、専ら網膜硝子体疾患の外科的治療および低侵襲小切開硝子体手術の臨床研究と技術開発に携わってきました。

#### ■網膜硝子体手術の現在

ご存知のようにここ数年来の網膜硝子体手術分野での進歩が非常に目覚ましいものがあり、これまで解剖学的な網膜組織の修復が手術の主たる目的でしたが、今後は白内障手術治療と同じように、良質な視機能の改善と維持を如何にめざすかが治療の目的となって参りました。最近のいわゆる小切開硝子体手術では、網膜剥離や増殖糖尿病網膜症を含め、殆どの症例では結膜切開をせずに手術を行うことができます。眼内へアプローチは自己閉鎖するようなわずか0.5mm程度の小さな切開創を通じて行い、高性能な硝子体手術装置による硝子体と網膜への手術操作で短時間に手術を終了することができます(図1)。これによって、最小限度の手術侵襲で術後炎症を大幅に減らすことが可能となり、大きな切開創で縫合を要した従来の術式に比べて、患者の負担が少なく、術後早期に視力回復が得られるようなこの最新の低侵襲手術が当院では主流となっております。

#### ■整備された手術環境

こうした手術に必要な最新の手術設備と環境を早くから整えて積極的に取り組んできたお蔭で、当院では小切開手術の適応が徐々に拡大して、重症例であっても比較的短時間で高いクォリティーの手術治療と短期離床による早期の社会復帰を提供出来ることが自負の一つであります(図2, 3)。これに伴い、裂孔原性網膜剥離、網膜下出血の新鮮例や進行した増殖糖尿病網膜症などの比較的緊急性を要する重篤な網膜硝子体疾患への受け入れのキャパシティが増え、より迅速にかつ的確に対応することが出来るようになりました。近い将来、西葛西・井上眼科病院は本邦でもっともクォリティーの高い網膜硝子体センターの一つになると期待しております。



図1: 結膜を切開せずに緑色のカニューラとよばれる筒を通じて眼内にアプローチする。

図2: 増殖糖尿病網膜症に対する小切開硝子体手術。明るい照明と広い観察野のもとで、双手法によるきめ細かい膜切除の操作を行うことで術中の合併症も軽減できる。

図3: 緑色のカニューラを抜去すると、無縫合で手術を終了し、殆ど白内障手術とかわらないクォリティーが得られる。

### 「西葛西・井上眼科病院」新築計画 (2015年春 竣工予定)

この度、病院施設・設備・診療体制のより一層の充実と利便性を図るため「西葛西・井上眼科病院」「西葛西井上眼科子どもクリニック」並びに「西葛西井上眼科クリニック」の1病院2施設を移転統合し、新しい「西葛西・井上眼科病院」を建設する運びとなりました。移転先は現在地より徒歩5分ほど(西葛西3丁目、西葛西小学校付近)で、2015年春竣工の予定です。

今後は、医療・サービス・施設等あらゆる面でお茶の水地区の入院・外来施設との連携を強化します。地域や患者さまのニーズにお応えできるよう、「患者さまに優しい病院」をモットーに職員一同取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新病院建設の様子は、井上眼科だよりやホームページなどを通じて、随時、情報更新していく予定です。



新「西葛西・井上眼科病院」外観イメージ